



「特集」

- りんご並木70周年
- 飯田市立動物園70周年
- 大学のあるまちで
地域の未来を拓く

70年分の想いを受け継ぐ

昭和28年、飯田東中学校の発案によってつくられたりんご並木は、生徒たちやさまざまな人たちの手により、今も守られています。

りんご並木 70周年

昭和28年、飯田東中学校の生徒たちの「自分たちの手で美しいまちをつくろう」との思いからつくられたのがりんご並木です。りんご並木は70周年を迎えた今も、生徒たちをはじめ多くの皆さんにより守られています。

●問い合わせ／学校教育課 教育企画係 ☎0265(22)4511 内線3713

りんご並木の歴史

昭和22年4月20日、市街地の3分の2を焼き尽くす大火が起こりました。その5年後の昭和27年、大火を教訓として広い防火帯としての道路が作られることになりました。

そんな時、飯田東中学校長の松島八郎先生が、札幌の街並みを歩いた際に街路樹の美しさに感嘆したこと、また、ヨーロッパにあるりんご並木のことを生徒たちに話したのがきっかけで、生徒たちに「自分たちの手で美しいまちをつくろう」という考えが生まれ、「りんご並木を自分たちでつくろう」という考えにまとまっていきました。

当時の飯田市長や助役に数回にわたって「りんご並木を作りたい」と提案し、市も協力して、昭和28年には生徒たちの手で苗木が植えられました。生徒たちの熱心な手入れにより、昭和30年には最初の実ができましたが、落果や盗難により収穫ができた実はわずか4個となってしまいました。しかし、このことが報道されると、全国から飯田東中学校に激励の手紙が相次いで届き、生徒たちは心を強くしてさらに

作業に取り組みました。

その後、りんご並木の駐車場化という声が上がったり、老木となり病気にかかったりんごの木をどうするか、といったさまざまな課題が生じました。これらの課題にも、代々の生徒たちが向き合い、地域の方々の支援を得ながら乗り越えてきました。

平成3年から7年にかけては、生徒も参加してりんご並木の再整備が検討され、平成11年には、歩道と車道が一体で歩行者を優先とする公園的なりんご並木が完成しました。これを生かして、りんご並木まちづくりネットワークを中心に地域のまちづくり委員会や連合青壮年会、各実行委員会などの手によって歩行者天国イベントも行われており、多くの方が訪れています。

中学生の提案から生まれ、「飯田市のシンボル」となったりんご並木は現在も、飯田東中学校をはじめ、りんご並木に花を植える会、地域の皆さんや事業者の皆さん、下伊那農業高校の皆さん、追手町・浜井場・丸山小学校の皆さんなどにより守られています。

委員長に インタビュー！



りんご並木70周年生徒実行委員長・
並木委員長

宮下 悠雅さん
(飯田東中学校3年生)

🍏 並木委員長になった きっかけは

2年生の時に、りんご並木のりんごから作ったジュースやジャムをイベントで販売した時に、色々な方から声をかけてもらい、りんご並木を持つ価値に気づいたことが、並木委員長になったきっかけです。



🍏 日頃の作業で大変なことや うれしく思うことは

日頃の草取りなどの作業は、全校の生徒で取り組んでもなかなか終わらず大変です。ですが、収穫の際には1年間の努力が報われた感じがして、とてもうれしく思います。

🍏 70周年という節目を迎えて りんご並木に思うことは

私たち飯田東中学校生はりんご並木のことをよく知っています。飯田市に住んでいる方でもりんご並木のことをあまり知らない方は多いと思います。このりんご並木70周年という節目が、飯田市外の方も含めてより多くの方にりんご並木のことを知ってもらう機会になるとうれしいです。ぜひ、飯田市のシンボルであるりんご並木を大事にしてください。



りんご並木のプレートを更新したい！

70周年の並木をより美しく

りんご並木にある26本の木には、それぞれの木を紹介するプレートがあります。このプレートは、平成21年に生徒たちにより設置されましたが、劣化が激しく、70周年を機に更新しようと、生徒の皆さんが中心となってクラウドファンディングプロジェクトに挑戦しました。受付は8月25日で終了しましたが、温かいメッセージと共に寄附が集まり、目標金額を達成しました。新たなプレートの設置をお楽しみに！！



記者会見しました



木が腐って倒れそうです

プレートがひび割れています

9月30日(土)にりんご並木70周年記念式典・記念講演会を開催します。詳細は20ページのお知らせをご覧ください。





飯田市立動物園70周年

飯田市立動物園は、昭和28年の開園から70周年を迎えました。

昭和22年の大火が起きた後、復興のための都市計画事業により整備した扇町公園内でサルや小鳥を飼育していたのが動物園の前身で、昭和28年5月5日市営動物園として開園しました。開園当初は飛行塔などもあり、ライオンやヒグマなどの猛獣も飼育していましたが、市が大規模地震対策特別措置法の地震防災対策強化地域に指定されたため、昭和56年から改修工事が始まり、昭和62年には小動物中心の動物園として生まれ変わりました。平成24年から26年にかけて大規模改修を行うなど、動物たちにとってより良い環境となるよう整備を行ってきました。

開園当初大人4円、子ども3円だった入場料が昭和49年に無料化され今に至ります。昨年は来園者が年間14万8千人を超え、過去最高を記録しました。これからも、地域の皆さんをはじめ県内外から多くの皆さんにご来園いただけるよう取り組んでいきます。



昭和28年7月～昭和59年8月

ライオンがいたんです



ヒグマもいたんです



昭和31年～昭和59年8月

飛行塔がありました



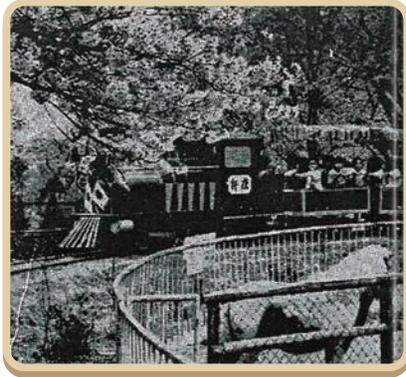
昭和29年8月～昭和57年

水族館があったんです



昭和29年～昭和57年





初代弁慶号



昭和30年代「おとぎ列車」と呼ばれた豆汽車



園長より

園長
星野 直



皆さんの税金で運営されている動物園。オーナーは市民の皆さんです。お預かりした大切な場所を、これからも守っていきたく思います。

飼育部門より

飼育部門長・事務局長
伊藤 崇



動物園は、長年市民の皆さんに支えられ現在に至ります。動物たちが幸せに暮らし、皆さんに楽しんでいただけるよう、飼育スタッフ一同ますます努力して参りたいと思います。



アメリカビーバーのガジコさん
ヤナギの木を食べています



ポニーの大五郎



立派な角をもっている
ニホンジカ角太くん



ヨーロッパフラミンゴ



スタッフによるSNSも大人気!!

SNSで
毎月更新している
「いいだどうぶつずかん」
動物たちの豆知識が
もりだくさんです。



★ X (旧 Twitter)



★ Instagram



仲良く並んで
ごはんを食べています



大学のあるまちで地域の未来を拓く

飯田下伊那地域では、四年制大学誘致の実現を目指し、信州大学新学部誘致推進協議会を立ち上げて取り組んできましたが、8月3日、信州大学から「国の支援状況の動向を踏まえ、情報系人材の養成は新学部ではなく理工系の大学院の拡充で対応」する旨の発表がありました。なお、「引き続き、社会に求められる人材養成の強化充実に向けて検討を進めていく」と伝えら

れています。

当地域としては、情報系の分野に限らず、他の分野も念頭に置いて「大学のあるまち」の実現に向け、引き続き四年制大学の誘致を進めていく方針です。

今回の特集では、これまでとこれからの当地域における大学誘致の動きについてお知らせします。

当地域における 高等教育機関誘致などに関する動き

当地域は古くから、地域外の人材や知識を柔軟に取り入れながら発展してきました。

故郷で若者が学ぶ機会を得られる大学設置を夢見て、貴重な資料を飯田図書館に寄贈し続けた宮澤芳重さん（松川町出身）の想いに代表されるように、未来を拓く若者を当地域で育み、産業や文化を振興し、豊かな地

域社会を築き上げていくための四年制大学の設置を望んでいた地域でもあります。

地域の若者が地元から通える高等教育機関を創りたいという強い想いは、飯田短期大学や飯田コア・カレッジの開校という形で実現に至っています。

さらに四年制大学という教育・研究拠点が地域内に設置

大学との連携や大学誘致への期待感

飯田の大学連携に関わりの深い方



橋南地区在住
桑原利彦 さん

持つ彼ら（彼女ら）と一緒に考え活動することで、多くの刺激や専門的な視点をもらっています。

この地域に四年制大学ができたら、「平場」に新たな主体が継続的に加わることで、地域内外の交流がより活発になり、多様な価値観を取り込んだ地域づくりにつながる大きな力になると思います。そしてそれは、全国のどこにもない飯田らしい大学の形になると期待しています。

飯田を訪れる多くの大学教員や学生にとって、飯田に息づく、年齢や立場を越えて皆が対等に話し合い協力する「平場」の精神はとても魅力的に映り、飯田市民にとっても、時間的余裕と自由な発想を

されれば、次代の地域社会を担う高度専門人材の育成や、地元産業と結びついた新たな技術革新などの効果が期待できるほか、外部から若者や研究者が集い、当地域から世界へ新たな価値を発信していくことにつながります。

知のネットワークとして飯田に知の集積を実現するキャンパス

先進地の状況から

のない大学「学輪IIDA」や、寄附講座による大学院の開講など、地域における「大学機能」の充実に取り組んできました。そんな中、令和3年10月に信州大学から新学部構想が示され、飯田下伊那地域におけるこれまでの四年制大学設置への気運が高まりました。

推進協議会では令和5年3月、当地域と同様に大学開学を長年の悲願とし、1990年代初めにコンピューターの可能性に着目して情報系に特化した福島県立会津大学を開学した会津若松市を視察しました。会津若松市は、地元にかつた情報先端産業企業や会津大学と連携しながら、大学設置後30年の間に情報系の先進地とし

ての優位性を徐々に築き上げ、今やICT分野ではトップランナーの存在となっています。また、行政や社会のデジタル化や、多くの大学発ベンチャーが市内に起業するなどの成果を収めています。地域にある特徴や資源を生かし、新たな価値につなげ「その地域らしさ」を創り上げていくことが重要だと感じました。

飯田の自治や学びに携わってきた方



座光寺地区在住
塩澤哲夫 さん

この地域には、外からの刺激を受け入れ、自分たちの文化にしてきた気質と力があります。その源流はムトス精神にあり、そのためには他者との交流や刺激を通して自分を見つめ直す機会が必要で、四年制大学の誕生は、飯田の力を

未来につなげるための大きな可能性を秘めていると思います。全国からこの地に集い学ぶ若者には、ぜひこのムトスを身に付けて欲しい。その力が飯田にはあるし、それが飯田ならではの学びなのではないでしょうか。四年制大学によって地域が成長し、外から来た大学生が地域の姿からまた刺激を受けて成長していく。そんな飯田らしい交流と学びのサイクルが生まれることを切に願っています。

地元の高等教育機関で学んだ方



社会医療法人健和会
健和会病院
野崎優奈 さん

高校時代に自身の進路について悩んでいた時、恩師に地元を離れたいとは思っていませんが、看護師に興味があることを伝えると、飯田女子短期大学（現 飯田短期大学）への進学と病院の奨学金制度のことを教えてくださいました。地元で通いながら

資格を取ることができると短大があったことで、親に経済的な負担をあまりかけずに学ぶことができ、本当にありがたかったです。今年度から共学となり、男性でも通える短大が地域にできたことはとても大きなことですし、四年制大学ができれば、この地域で学び、暮らしたいと思っています。そのような若者の選択肢がさらに増え、とても貴重なことだと感じます。

経済波及効果の視点から

推進協議会が外部調査研究機関に委託して行った大学設置による経済波及効果の算出によると、2050年度までの累計で1567億円程度の波及効果が見込まれるという結果になりました。設置後の大学の規模などを仮

に設定し、大学が行うさまざまな活動の中で教育活動、研究活動、消費活動から見た当地域への波及効果を試算したものです。新学部を卒業した人材がこの地域で好循環する仕組みを構築していくことで、さらなる効果が期待できます。

令和5年度総会と講演会を開催しました

7月9日、「エス・バード」において、令和5年度信州大学新学部誘致推進協議会総会が開催され、約250人が参加しました。佐藤会長（市長）が誘致の現状と大学をめぐる国の方向性などを説明しました。今後は、地域の強みを生かせる空モビリティ（注1）やGX（注2）など、情報系以外の分野にも視野を広げ、誘致活動を行うことを確認しました。



新たな発展領域や可能性の広がりについて

総会、講演会には推進協議会会員である各界の企業の皆さんも参加されていました。地元産業界の皆さんは、社会変革時代におけるこの地域の可能性や発展性についてどのように感じたのでしょうか。当日の感想も含めてお聞きしました。

産業界として期待すること



多摩川精機株式会社
専務取締役
熊谷秀夫 さん

設備が揃っています。最近では、次世代の産業として次世代空モビリティや水素燃料に注目して研究開発を行っており、今も大学と一緒に研究を行っています。大学がより身近になることで研究開発がより多くできるようになればありがたいし、将来の人材確保につながることに期待するところです。

私どもの会社は民間航空機の開発をここ飯田でやろうと長年行ってきており、エス・バードには研究開発のために必要な日本で有数の

今後に生かしていかなくては この地域の特徴や強みとは

環境文化都市宣言をしている当市を始め、この地域はこれまで環境分野の政策に力を入れてきた先

進地域であり、経済と環境の好循環を作る国の産業政策（グリーン成長戦略）に掲げられている次世

総会後は、日本政策投資銀行設備投資研究所長の竹ヶ原啓介さんを講師に迎え、「社会変革への挑戦を支える地域資源の特定と活用に向けて」と題した講演会を行いました。

社会変革の波をどう乗り越えるか 社会変革への挑戦を支える地域資源の特定と活用に向けて

● 地域環境権条例など、環境分野の「知の拠点」としてリードしてきた飯田下伊那地域のGXにおけるポテンシャルは客観的に見て高い。

● 地域特性に則した戦略を地域を挙げて議論していくことが重要。

● 地域の可能性を広げていくために四年制大学は原動力の1つとなる。これまでの取り組みの蓄積が持つ研究対象・

(注1) 空モビリティ

ドローンや空飛ぶクルマといった空を利活用した移動手段のこと

(注2) GX(グリーン・トランスフォーメーション)

化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと

(経済産業省HPより)

フィールドとしての価値を再評価することは有意義と考えられる。



竹ヶ原啓介さん

代エネルギーや航空機、農林水産業、資源循環といった分野を中心とした広い意味でのGX分野に新たな価値を創造していくことが「この地域らしさ」の1つになるのではないか。

今後に向けて

地域四年制大学には、主に「教育・研究・社会貢献」の機能があります。これらの機能は、リニア時代に向けてこの地域が直面する課題を解決していくのに必要不可欠であり、「2050年日本一住みたいまち飯田」の実現に重要な役割を果たします。

技術革新や人材育成の拠点となり、地域を支えてきた各種主体との相乗効果を生み出す原動力の一つとして、四年制大学はこの地域に必要です。

これまで行ってきた大学と連携した取り組みや、地域の特徴と将来性、目指す姿などを整理し、新学部設置の必然性を持つ分野、当地域の強みを生かせる新たな発展領域(GXなど)を念頭に、四年制大学の設置実現を目指していきたいと思えます。

リニア中央新幹線開通による長野県の南の玄関口としての飯田市の存在価値を高めていくために、引き続き、地域一丸となって四年制大学の誘致に取り組みしましょう。

▼ 問い合わせ／大学誘致連携推進室 内線2250

いいだ人形劇フェスタ2023 みんなの笑顔まっとるに



セントラルパークでの公演は今年で最後

日本最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ2023」が8月3日から6日までの4日間開催されました。

韓国と台湾の劇団を含むプロ、アマチュア、学生など約250団体が出演し、飯田下伊那地域107の会場で約360公演が行われました。どの会場でも、観る人、演じる人、スタッフが一緒になって楽しみ、笑顔が溢れていました。



人形劇団ブーク「エルマーとりゅう」

天竜川総合学習館かわらんべ 夏休みスペシャルDay



小型ドローンの操縦を体験

夏休みの学習支援を目的とした特別講座が7月29日に開催され、のべ520名の参加者親子が竹水鉄砲、ソーラーカーなどの制作や、小型ドローン操縦、河川パトカー乗車などを体験しました。

JR飯田駅開業100周年 新たな時代へ出発



市産業親善大使の小沢あきこさんとニッチローさんらも参加開業日である8月3日に記念式典が行われ、JR東海社員の日課「JR東海体操」を踊りました。新たに設置されたリニア中央新幹線の車両をイメージしたデザインの待合室もお披露目されました。



飯田まつり飯田りんごん 待ちわびた祭り

追手町小学校6年生がりんごん大賞を受賞

夏の風物詩である「飯田まつり第42回飯田りんごん」が、8月5日に開催されました。午前11時から行われたふれあいアップルタウンではパフォーマンスやイベントが行われ、訪れた多くの人で賑わいました。

午後6時30分からは飯田りんごんが開催され、66組の参加連によるりんごん踊りとともに「りんごん、りんごん、ほいおいな!」と元なかけ声が、夜のまちに響きました。



華やかな踊りの連が飯田のまちを彩る

合同高校説明会を開催 現役高校生が主催



先輩の話に耳を傾ける中学生

7月30日、中学生が進路を選ぶ際の参考にと、現役高校生が自ら企画運営をした合同高校説明会が開催されました。訪れた中学生は、学校の雰囲気や、受験勉強の方法などを質問していました。

カンボジア・スタディツアー 広い視野を持つ



現地に建てられた飯田学校の子どもたちと交流

市公民館が主催する高校生講座「カンボジア・スタディツアー」に15名が参加しました。異国の地の生活・文化・歴史に触れることで、自分たちの暮らしを改めて見つめる機会となりました。

現代版 養生訓

アレルギー性鼻炎に対する

舌下免疫療法



耳鼻いんこう科・頭頸部外科
まつうら かずき
松浦 一輝 医師

アレルギー性鼻炎は、ダニやホコリなどが原因で1年を通して鼻炎症状が認められる「通年性アレルギー性鼻炎」と、スギやヒノキの花粉などが原因で、花粉の飛散時期だけに鼻炎症状が認められる「季節性アレルギー性鼻炎(花粉症)」に分けられます。年々罹患患者数は増えてきており、現在国民の2人に1人(49.2%)がこの病気を罹っています。ここ数年で発症年齢の低年齢化が進んでおり、5〜9歳台での発症も増えてきています。くしゃみ、透明な鼻水、鼻づまりなどの症状を特徴とする病気で、これらの症状によって、勉強や仕事に集中できなくなったり、不眠、ストレスの原因となり私生活に支障が出る場合があります。アレルギー性鼻炎の治療には「薬物療法」、「手術療法」、「舌下免疫療法」の3つが

あります。また、症状の原因となるアレルゲンを回避する環境整備も重要です。薬物療法では飲み薬や点鼻薬で症状を抑えることができます。最近では市販薬と比べて効果がない場合でも、効き目が強く眠気などの副作用が出にくい薬が増えてきています。手術療法は、鼻の粘膜を削り減量する下鼻甲介切除術などがあります。薬物療法でも症状が抑えられない場合などに考慮される治療です。

舌下免疫療法は、2014年から保険適応となった治療で原因となるアレルゲンを投与し、体のアレルギー反応を弱める治療です。舌下錠では、ダニ(通年性)とスギ(季節性)にアレルギーをもつ方が治療を受けることができます。治療は3年以上継続して服用する必要があります。治療は



飯田市立病院
〒395-8502 飯田市八幡町438
TEL.0265-21-1255

Vol.31

市長室から

市長 佐藤 健

「栗山さんの言葉を胸に」



8月の初め、地方紙に載った「新学部設置見送り」の見出しに、がっかりした方も多かったことと思います。

信州大学が、「情報系人材の養成については、学部レベルではなく理工系の大学の拡充で対応していく」という方針を出したことで、当初想定していた「情報系の新学部」を設置するという線が事実上なくなったもので、昨年来の国の政策の変化を踏まえれば「想定範囲内」ではありますが、やはり残念です。

しかし、四年制大学(学部)の設置は、宮澤芳重さんをはじめこの地域の先人たちがずっと願い、取り組んできたこと。ここで意気消沈しているわけにはいきません。

信州大学からの報告を聞

いたとき、私は、栗山英樹さんが「飯田市民の皆さんへ」と残してくださった色紙の言葉を思い出していました。

「夢は正夢。人はどんなに失敗をしても、成功するまで頑張ることが出来れば、夢は叶います。信じています。全力でいきましょう。」

7月に行われた信州大学新学部誘致推進協議会総会でも申し上げましたが、GX※など当地域の強みを活かせる新しい学問領域を念頭に、引き続き、四年制大学(学部)の設置実現に向けて、粘り強く取り組んでまいります。

市民の皆さんにも、「どうせ無理」と諦めたり、斜に構えたりせず、自分事として考え、応援していただければ幸いです。

※GX
① クリーン・トランスフォーメーション
解説は特集ページをご覧ください。

学びの宝庫、飯田

～ 大学生からのメッセージ～

No.104

飯田を訪れて感じた 地域への愛着

東京農工大学農学部1年
鷲野咲季さん

2023年7月に東京農工大学農学部地域生態システム学科の地域生態システム学実習Ⅰの実習科目として、飯田市に伺いました。

実習の中で感じたことは、飯田市にはやりたい人が声をあげられて、それを支援し、話し合う環境が整っているということです。飯田の皆さんは、飯田が好きで、飯田のために何かしたいという思いがあるのを感じました。

特に、皆さんが義務としてそういった話し合いの場に参加しているのではなく、本当に自分の意志で出席しているのを感じました。飯田の皆さんからすると当たり前のことかもしれませんが、とても難しいことのように思いました。

また、初対面である私にもたくさん話しかけてくださって、中には「今度来るときはうちに泊まりなさい」とまで言ってくださる方もいらっしゃいました。1泊2日という短い期間でしたが、とても居心地がよく、ぜひまた飯田に行きたいと思いました。



下久堅地区での現地実習



先月の
鈴木志野さん(川路)
からのリレー

元々行動力がある方ではなく、年を重ねるほどさらに慎重になり、狭い世界の中で何事もなく過ごす癖がついてしまっていました。

あることから、挑戦できる環境にいるのに何もしないことがいかにもつたないかを考えるようになりました。

新しいことに挑戦するってなかなか勇気がいるんですが、行動してみたことで自分も成長できるだろうし、自分を囲む世界も変わってくるはず。

幸せなことに、腰の重たい私を力強く引っ張ってくれる人や、応援してくれる家族や友人もいます。

傍観者にならず、どんどん行動できる自分を目指していきたいです。

今がんばっていること

林京子さん(座光寺)

毎月市民の皆さんに、

①私の健康法 ②感動したこと ③今がんばっていること ④まちづくりへの提言
以上の項目から選んで語っていただき、次の方にボタンタッチする「リレートーク」です。次はあなたの番かも…



鎌倉歩未さん
(竜丘小学校6年)

将来への一步一步

私の将来の夢は、看護師です。理由は、小さい頃からの夢で、怪我や病気などで苦しい思いや悲しい思いをしている人達を、自分の力で元気にできたらうれしいと思ったからです。

そして、6年生の委員会決めで、看護師になるために「小さくても良いから、将来の夢がかなうように一歩踏み出してみよう」と思い、保健委員会に立候補しました。すると、委員会の委員長にもなれ、看護師への小さな一歩ができました。

これからも一歩を重ね、看護師の夢へ歩いて行きたいです。

日ごろ感じていること、市政に対するご意見・ご質問、
「広報いいだ」の感想など、広報広聴係までお寄せください。

☎ 0265(22)4511

✉ ikouhou@city.iida.nagano.jp